

平成25年度 山口県文書館古文書実践講座テキスト

## 2 城下町萩の地誌(二)

—阿武郡萩市中故事—



山崎にたよりし海軍の要員は家へ  
後、今も海軍の要員は家へ  
中上流階級の子弟は海軍に志す  
少くも志す也

敵軍の振舞

一 東の海軍は内田少将の艦隊が在る  
南進の意は、文相の意向に依り  
不慮多し。内田少将は多岐  
人事に及ばず、別派の力に頼る  
敵の力と見るに如力に思ふは、  
敵の力と見るに如力に思ふは、  
突し、海軍に志す子弟は、  
多し、海軍に志す子弟は、

石上と土毛の子孫を主として南の方  
陸奥のありたの先成る一法を以て  
海邊の言を以て一と名を以てす

三、頼

武部四郎 土毛右衛門 出羽守 未可守  
法名 周磨 寺月 依摩公

陶全善ノ慕遂テ西ニ大内家ヲ背キ元就

公ト約アリ石州ニ本松ノ家城ヲ楯トモリ從大

内家收月伎トイヒ堅ク護ル元就公ヨリ

有の如智得勝利ノ後封御家軍功差

干世石州吉賀郡長州河武郡厚東郡防州

依伎郡等ヲ領ス中々及老年河武郡楯月

陸居ニ於彼新天正十六年戊子正月廿二日

死

德公奇書包卷人肉并卷

一 卷長九年十二月始而後清人始之

初九高九第廿本建... 山... 乃... 德公

七書

一 義勝城高絶地山麓即上之寺也其年  
三月丁酉年此寺之修務也

徳山春吉右衛門

一 義勝城高絶地山麓即上之寺也  
此寺及南寺門之蓋四年春及  
此寺之蓋也

蘇子卿  
荊園院

飛石所の東の力山側を降して家法を  
派南新嘉長院に末流あり 羽林表  
龍より西の寺に吳師とあるなり 寺  
場より西の寺に上人とあるなり 寺  
又十一年の末 廟を地蔵とす 寺に法法禪と  
用いて業自院と号す 寺に東近と云  
年ハ南の寺に如子と号す 寺に東近と云

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

近江橋一里を過ぎて一宮の地を  
し文多指し

本堂 本尊 阿彌陀佛 新心

文珠堂曰 文珠大土 新化

新市物

長青寺の事

飛居屋町より東に谷町の山に有し  
歩む所は常の地なり 汝地は長青寺  
寺ありて三法あり



義高卿  
内道

春若日之門東之志格を以て世に示す  
此小漸正親利之其之不及也  
去之内道之半前二後之終之  
不替矣

次

藤平傳

東之若所

山片河河の山為  
其居傳中一由不  
後高今三三小居  
汝氏人令

嘉名場  
知子町

本表町の東三河の山に於ては他者  
の御主人居候也其山に於ては  
御主人と御主人と云ふ

嘉名場  
知子町  
本表町の東三河の山に於ては他者  
の御主人居候也其山に於ては  
御主人と御主人と云ふ

森多樹 塔に丁

細工所之東 法利寺所の北はまる所  
五塔の中央集名作 塔と糸の長  
とを移り故に法利寺と云

森島

小島

橋の東も森島町の北より  
言わば小島を主として出る  
人多く在りて小島は所々



森名所  
丹白所

丹白所の東山回所の少くを上下に  
二所と合西と取りきし東と取り  
上と夫と取りきし東と取り  
上と夫と取りきし東と取り  
上と夫と取りきし東と取り  
上と夫と取りきし東と取り

秋西曆

山中回法會詩

五

秋花院之東容雅共尚少之國吏法奉會

山中回中一節以爲辭之淨爲多科矣

或言非遠者先多念之筆也進補一果

多輕重之於同紀於其法也

一星上之在乃古以山中法會下月



世三  
河上原河より北河と東也一里路を祝  
多部

美市郷

今道河

北行河へ東後河古真能河の地カ之  
前道河の分庫地ありは号ハ地摩子  
今河ハ今道河ト云ハ今道河  
の分庫ト云ハ